

# 施 策 評 価 表

京 都 府 南 丹 市  
作 成 日 : 平 成 23 年 7 月 1 日

平成23年度(平成22年度実施)

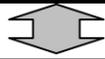
評価施策名	4 誰もが安心な地域交通システムをつくる	施策CD	34	施策主管部	企画政策部	部長名	伊藤 泰行
政策名	第3章 人・物・情報を高度につなげる			施策関係部			

**【施策の概要】**

**1 南丹市が考える理想(目的)**

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
市営バス利用者数(前年度実績)	人/年	251,128	250,249	255,000	240,247	255,000	255,000
福祉タクシー事業所数	事業所	11	11	12	12	12	13

○ 交通弱者に対して、適切な移動手段を確保する。



**1 南丹市の現状(課題)**

○ 市域が広大なこともあり、スクール路線を中心とした市営バスの運行や民間バスへの委託、要介護者や障がいのある人を対象とした外出支援サービスを実施している。

○ 交通体系が市民の移動手段を十分確保できるまでには至っていない。

(現状)

市バス利用者数	254,944人/年(平成18年)		路線数	台数	H20決算	運賃収入	乗車人員
スクールバス	12	11	70,222千円	11,016千円	199,401人/年	(うち人件費50,179)(うち混乗8,320)(うち混乗53,203)	
市営バス	4	4	10,880	20,817	56,906	(別に人件費18,610)	
バス運行委託	4		44,677				
路線バス維持費補助	3		14,034				

**2 対策をしなければどうなるのか**

○ マイカーを利用できない通学者や要介護者、障がいのある人が、学校や病院へ通うことが困難になる。

**3 それは何故おきたのか**

○ 広い市域をくまなく運行することは難しいことから、運行範囲を限定せざるを得ない。

○ 多くの人が公共交通システムより、ドアtoドアで目的地に行くことを選ぶ傾向にある。

○ 結果、公共交通システムの利用者が減り、バス事業の運営が厳しくなり、更に運行範囲を限らなければならないという負の循環が生まれている。

**4 それらを解決するために何をするのか**

①バス交通システムの利便性を高める。

- ・南丹市バス交通整備計画の作成
- ・体系的なバス交通網の維持と充実
- ・積極的なバス利用の推進
- ・誰もが乗り降りしやすく、環境に配慮したいバス車両の導入
- ・小型車両の導入などによる移送手法の検討

②障がいのある人や高齢者が安心して外出できる体制を整備する。

- ・外出支援サービスの充実
- ・NPOなどによる福祉有償輸送活動への支援

**【施策コスト】(評価対象事業の合計)**

	単位	H20	H21	H22	H23	H24	
決算額(計画額)	千円	89,733	82,078	138,738	173,914	159,076	
財 源 内 訳	使用料・手数料	千円	29,137	27,627	25,513	27,240	26,400
	国・府支出金	千円	31,021	28,593	28,530	26,200	25,500
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	29,575	25,858	84,694	120,474	107,176
職員従事人数	人・年	24.90	3.10	4.00			
人件費	千円	61,194	11,470	20,033			
事業費総額	千円	150,927	93,548	158,771			

**【施策目標の達成に貢献度の高い事業】**

全 4 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額		
		うち一般財源	うち人件費
スクールバス運行事業(スクールバス運行事業)	25,170	11,400	7,037
バス運行事業(生活路線バス等運行事業)	61,326	46,324	4,252
市営バス運行事業(市営バス運行事業)	11,974	△ 13,297	5,313

**【前年度の評価】(要約)**

**【総合評価】**  
スクールバスを中心としたバス交通であるので、少子化の進行に伴い通学利用者の増客は見込めない。一方高齢化の進展に伴い、交通弱者は増加傾向にあるので、ニーズに合ったバスダイヤの編成を実施してきた。高齢者を中心とした交通弱者が増加しているが、バス交通と併せて既存タクシー等を活用した交通体系を確立する必要がある。又JR山陰本線園部・京都間の複線化完成により京都方面からのアクセスが改善されたため、バス路線上の観光地への乗客の増加を図っていく。

**【改善の方向性】**  
南丹市全域の高齢者を中心とした交通弱者対策として、新たな交通システムを構築する必要がある。具体的検討を進める。バス事業については、直営バス、委託バス、補助金バス、事業者独自運行バス、福祉・過疎地有償運送、既存タクシー交通があり、それぞれの役割分担の中で交通体系を確立していく必要がある。

**【今年度の評価】**

**【総合評価】**

①目標の達成状況  
少子化の進行に伴う通学利用者の減少、高齢化の進展に伴う交通弱者の増加に伴うバスダイヤの編成。新たな交通システムの実証事業開始に伴う具体的な計画樹立。

②目標値や施策の考え方の見直し  
高齢化が進み交通弱者が増加していく中、新交通システム(デマンドバス)の実証実験結果等によりダイヤ編成を行う。

**【改善の方向性】**

①今後の方向性  
新交通システムの実証実施により、利用者の利便性の向上を図る。

②各事業の対応  
スクールバス通学は本市では、必要不可欠であり今後もスクールバス中心のダイヤを編成を行う。生活路線バスについては、今後予定のデマンドバス実証実験結果も踏まえ利用者のニーズにあったダイヤ編成を行う。

**【評価を受けて取り組んだこと】**

高齢化による交通弱者は増加傾向にあり、ニーズにあったバスダイヤ編成を心がけた。新たな交通システム構築として、デマンドバスに係る協議を本格化し平成23年4月から日吉、美山地域で、平成24年4月から園部、八木地域でのデマンドバス実証実験による運行開始を決定した。